

## 『麦秋』『Early Summer』について

【参考資料】 <http://wkp.fresheye.com/wikipedia>



公開当時のポスター

監督	小津安二郎
制作	山本武
脚本	野田高梧 小津安二郎
配役	間宮周吉：菅井一郎 間宮志げ：東山千栄子 間宮康一：笠智衆 間宮史子：三宅邦子 間宮紀子：原節子 間宮実：高堂国典 間宮勇：城沢勇夫 間宮茂吉：高堂国典 田村アヤ：淡島千景 佐竹宗太郎：佐野周二 矢部たみ：杉村春子 矢部謙吉：二本柳寛 田村のぶ：高橋豊子

音楽	伊藤宣二
撮影	厚田雄春
編集	浜村義康
配給	松竹
公開	1951年10月3日
上映時間	124分

### 1. 概要：

小津の監督作品において、原節子が「紀子」という名の役（同一人物ではない）を3作品にわたって演じた、いわゆる「紀子三部作」の2本目にあたる作品である。1949年の『晩春』に引き続き、父と娘の関係や娘の結婚問題を主なテーマにしているが、本作ではそれがより多彩な人間関係の中で展開されている。

小津の前作『宗方姉妹』が公開された直後の1950年9月から製作の準備が始まり、1951年6月から同年9月にかけて撮影が行なわれた。固定カメラのイメージが強い小津としては珍しく、本作にはクレーンショット<sup>註</sup>を用いたシーンがひとつあり、これは小津の全作品中でも唯一のものである。これは2人の登場人物が並んで砂丘を歩いていくところを背後から撮ったシーンで、砂丘は高低差があるため、固定カメラの場合は2人が歩くにつれて画面の中心から外れていってしまう。これを避けるため、撮影しながらカメラをクレーンでゆるやかに上昇させて、2人が常に画面の中央にいたようにした。すなわち、クレーンを使用する目的として一般的な、カメラを動かして構図を変化させる意図ではなく、逆に構図を一定に保つためにクレーン撮影を使っているのである。

小津自身は、本作において「ストーリーそのものより、もっと深い《輪廻》というか《無常》というか、そういうものを描きたいと思った」と発言しており、小津とともに脚本を担当した野田高梧は「彼女（紀子）を中心にして家族全体の動きを書き加えた。あの老夫婦もかつては若く生きていた。（中略）今に子供たちにもこんな時代がめぐって来るだ

ろう。そういう人生輪廻みたいなのが漫然とでも感じられればいいと思った」と語っている。また本作は戦後の野田・小津コンビ作品の中で野田自身が一番気に入っていた脚本であり、野田は「『東京物語』は誰にでも書けるが、これはちょっと書けないと思う」とも発言していた。

演出に関しては、小津は「さらさらと事件だけを描いて、感情の動きや気持の移ろい揺ぎなどは、場面内では描こうとせずに、場面と場面の間に、場面に盛り上げたい」「芝居も皆押しきらずに余白を残すようにして、その余白が後味のよさになるように」という狙いであると語っている。

公開後、キネマ旬報ベストテン第1位など数々の賞を受けるとともに、『晩春』に続いて起用された原と小津との結婚説が芸能ニュースを賑わせた。

## 2. あらすじ

北鎌倉に暮らす間宮家は、初老にさしかかった植物学者の周吉とその妻・志げ、長男で都内の病院に勤める医師の康一、康一の妻・史子、康一と史子の幼い息子たち2人、それに長女で会社員の紀子という大家族である。まだ独身の紀子は、親友のアヤから同級生が結婚することになったという話を聞き、紀子の上司・佐竹からも“売れ残り”だと冷やかされる。

春のある日、周吉の兄・茂吉が大和から上京してきた。茂吉は28歳になっても嫁に行かない紀子を心配する一方、周吉にも引退して大和へ来いと勧めて帰っていく。同じ頃、佐竹も紀子に縁談を持ち込んできた。商大卒、商社の常務で四国の旧家の次男となかなか良い相手のようで、紀子もまんざらでもない風である。

縁談は着々と進んでいる様子で、康一の同僚の医師・矢部の耳にもこの話が入ってきた。矢部は戦争で亡くなった間宮家の次男・省二とは高校からの友人だが、妻が一昨年に幼い娘を残して亡くなっており、母親・たみが再婚話を探しているのである。

間宮家では、紀子の縁談の相手が40歳でしかも初婚であることがわかり、志げや史子は不満を口にするが、康一は「紀子の年齢では贅沢は言えない」とたしなめる。

やがて、矢部が秋田の病院へ転任することになった。出発の前の夜、矢部家に挨拶に訪れた紀子は、たみから「あなたのような人を息子の嫁に欲しかった」と言われる。それを聞いた紀子は「あたしでよかったです…」と言い、矢部の妻になることを承諾するのだった。間宮家では皆が驚き、佐竹からの縁談のほうがずっといい話ではないかと紀子を問いつめるが、紀子はもう決めたことだと言って譲らず、皆も最後には了解する。

紀子の結婚を機に、周吉夫婦も茂吉の勧めに従って大和に隠居することにし、間宮家はバラバラになることとなった。初夏、大和の家では、周吉と志げが豊かに実った麦畑を眺めながら、これまでの人生に想いを巡らせていた。

## 3. 「麦秋」をめぐる批評と分析

映画評論家の佐藤忠男は、本作について「小津自身の感慨が反映されている」と考察している。小津は生涯独身であったが、佐藤によれば女嫌いであったわけではなく結婚相手として考えていた女性もいたものの、恥ずかしがり屋で相手との仲を取り持ってくれる人物もいなかったために機会を逃していた。また小津は、友人が結婚する際「こういうことは、そばにいて親切に仲介してくれる人がいないとうまくゆかない」と語っている。このことから、佐藤は「(紀子が結婚を決める) 矢部という人物は小津の結婚についての願望が込められていたとも思われる」としている。

また、佐伯知紀は本作で描かれている間宮家という家族について「両親と複数の子供たちが揃った、みたところ過不足ない円満な<家族>のようでありながら、そこには一点ポツカリと口を開いた暗部が周到に用意されている」と書いている。佐伯によれば、この「暗部」とは戦死した次男の省二のことであり、作中には直接登場しないこの省二という存在が本作の構成上重要な存在となっている。紀子が矢部との結婚を突然のように決めてしまうのも、矢部が亡くなった省二の親しい友人であり、その省二を紀子がずっと慕っていたからこそ、矢部に亡き兄の姿を重ねあわせ、兄の不在を埋めるかのように紀子

は彼のもとに嫁ぐのである、と佐伯は指摘している。また、アメリカの作家・評論家ダン・シュナイダーも同様な分析をしている。

#### 4. 他作品への影響

本作に助監督として付いていた今村昌平は、紀子が帰宅し台所で一人お茶漬けを食べるというシーンが、後に日活で監督として立ち立ってから撮った作品『赤い殺意』に反映されていると『生きてはみたけれど 小津安二郎伝』のインタビュー内で語った。

また映画研究家のデイヴィッド・ボードウェルは、是枝裕和監督の『歩いても 歩いても』について、「亡くなった兄の存在」「家族写真」「家長である医師の父」といったモチーフが、本作や『東京物語』と共通すると指摘している。

#### 5. その他

間宮家の二人の子供を演じた村瀬禅（間宮実役）と城沢勇夫（間宮勇役）は、現在では俳優業を引退しているが、長野県茅野市で開催された第13回小津安二郎記念・蓼科高原映画祭において、2010年10月31日の『麦秋』上映後のトークショーに途中から参加、同席した淡島千景、山内静夫（『早春』以降の小津映画のプロデューサー）とともに小津安二郎の思い出を語った。なお、村瀬は『東京物語』にも同じ実という役名（苗字は平山）で出演している。

### 6. 内容理解のための鍵となる小説と音楽

#### 1) 「チボー家の人々」Les Thibault

（出典：<http://100.yahoo.co.jp/detail/>  
チボー家の人々 /）

フランスの作家マルタン・デュ・ガールの大河小説。1922～40年刊。『灰色のノート』（1922）、『少年院』（1922）、『美しい季節』（1923）、『診察』（1928）、『ラ・ソレリーナ』（1928）、『父の死』（1929）、『1914年夏』（1936）、『エピローグ』（1940）の八編からなる。敬虔なカトリック教徒で実業家のオスカル・チボーの2人の息子、アントアーヌとジャック、ジャックの友人でプロテスタントの家庭の息子ダニエルの3人の若者を中心に、まず展開されていく。

アントアーヌは秀才で将来を嘱望される医師で現実主義者として、ジャックは成功者で典型的なブルジョアの父親に反抗し少年院に入れられる理想主義者として、ダニエルは、母親である美しいフォンタナン夫人の寵愛を一身に受ける、ませた享楽主義者として描き出され、『チボー家の人々』最初の6巻では、これら3人の主人公が第一次世界大戦前の典型的なブルジョア家庭で、どのようにしてそれぞれ思春期を経て異なった三つの人格を形成していくかが物語られる。

しかし第七巻の『1914年夏』になると、焦点は、数年前家出して革命家の群れに投じ、いま歴史の流れを止めようとする反戦主義者として現れるジャックと、すでに医師として一家をなしたが歴史の流れに翻弄される平凡な市民アントアーヌに絞られ、2人を通じて大戦直前の緊迫した社会の動きそのものが小説の前面にせり出してくる。

こうした歴史小説としての結構をはっきりとみせるこの巻のあとに、そのような歴史への批判とでもいった形で『エピローグ』がくる。ここでは、反戦びらをまきながら飛行機事故で墜落したジャックの死後、ダニエルは戦場で身障者となり、アントアーヌも毒ガスのため余命いくばくもないといった、まさに崩壊しつつある大戦中のチボー、フォンタナン両家が描かれる。

そしてその全編を貫くのは、ジャックとダニエルの妹ジェンニーとの間に生まれた遺児ジャン・ポールへのかすかな希望がかいまみられるにせよ、いまや歴史への深い懐疑を抱き出した、死を待つアントアーヌの灰色の思念にほかならない。こうして二つの家族の歴史は、そのまま第一次大戦そのものの歴史とぴったり重なり合い、ここにたぐいまれなみごとな歴史小説が完成される。

#### 2) 「麦と兵隊」

（出典：<http://100.yahoo.co.jp/detail/> 麦と兵隊 /）

火野葦平の中編小説。1938年（昭和13）8月『改造』に発表。同年9月改造社刊。歩兵伍長（の身分で報道部員として、日中戦争の徐州作戦に参戦した従軍日記で、徐州へ向けて上海を出発した5月4日から、任務を終えて上海に帰ることの決まった22日までの従軍の様子が記されている。戦記とはいえ、

激しい戦闘描写はほとんどなく、兵隊の日常生活や  
 広漠と続く麦畑の中を行軍する部隊のようすや中国  
 民衆の姿や村の風景が、淡々とした筆致で描かれて  
 いるだけであるが、素朴な表現と誠実な作者の人柄  
 が読者の胸を打つ。兵士が戦場から送ったという臨  
 場感と生々しさが反響をよんで、単行本は空前のベ  
 ストセラーとなった。続く『土と兵隊』(1938)、『花  
 と兵隊』(1938～39)とともに作者のいわゆる「兵  
 隊三部作」をなす。

### 3) 「Home Sweet Home」

(参照：http://100.yahoo.co.jp/detail/ 殖生の宿 /)  
 邦題「楽しきわが家」「殖生の宿」。イギリスの作  
 曲家ビショップ (1786—1855) の代表作。1820年  
 にシチリア風のリズムで作曲した旋律を、23年ロン  
 ドン初演のオペラ『クラリ、またはミラノのおとめ』  
 のなかで現在の形に変えたもの。作詞 J・W・ペー  
 ン。この郷愁に満ちた旋律は「殖生の宿はわが宿  
 ……」(貧しい小屋に住んでいるが、自然の美しさが

## 11. Home, Sweet Home

John Howard Payne, an American who spent most of his life as a wanderer over Europe, with no settled home, became famous as the author of this best known and loveliest home-song the world has ever sung. He was at various times, an actor, translator of plays, and finally U.S. Consul at Tunis, where he died in 1832. The music was probably composed by Henry R. Bishop, although he himself designated it as a "Sicilian air."

John Howard Payne

Henry R. Bishop

1. Mid-pleasures and palaces though we may roam, be it ever so  
 2. An-ex-ile from home, splen-dor daz-zles in vain; Oh, give me my  
 6 ham-ble, there's no place like home! A charm from the skies seems to  
 low-ly thatched cot-tage a-gain! The birds sing-ing gai-ly that  
 11 hal-low us there, Which, seek thro' the world, is ne'er met with else-  
 come at my call; Give me them with the peace of mind, dear-er than  
 16 CHORUS.  
 where. Home! home! sweet, sweet home! There's  
 all.  
 21 no place like home, there's no place like home.

わが家を飾っている)の歌詞を付してわが国の小学校唱歌に取り入れられ、広く親しまれるところとなった。1889年(明治22)の『中等唱歌集』に収められ、映画、ドラマなどでも度々使われており、『ビルマの豎琴』『火垂るの墓』『純情きらり』等が広く知られる。また、特撮ドラマ『仮面ライダーV3』で主人公のお気に入りの曲である一面が見られた。

近年では、2004年(平成16年)にB-DASH(アルバム『ビッグブラックストア(連絡しろ)』)に収録が、2007年(平成19年)にキリンジ(参加したアルバム『にほんのうた 第一集』)に収録がカバーしている。NHKの連続テレビ小説「純情きらり」の中では主人公がオルガンで、「ゲゲの女房」の中では、ヒロインの村井布美枝(松下奈緒)が時々歌うシーンがある。

日本語版 「殖生の宿」 訳詞：里見義

- 1 <sup>はにゅう</sup>殖生の宿も 我が宿  
玉の装ひ <sup>うらや</sup>羨まじ  
<sup>のどかなり</sup>長閑也や 春の空  
花はあるじ 鳥は友  
おゝ 我が宿よ  
たのしとも たのもしや
- 2 <sup>ふみ</sup>書読む窓も 我が窓  
<sup>るり</sup>瑠璃の床も 羨まじ  
清らなりや 秋の夜半(よは/よわ)  
月はあるじ むしは友  
おゝ 我が窓よ  
たのしとも たのもしや

## 7. 映像の象徴性

### 1) いらかぐもについて:

麦秋は夏を表す。しかし、最終場面では秋の「いらか雲」の空が演出される。この齟齬は何かを象徴しているように感じられるが、それが何であるかは検討を要する。

### 2) 最終場面の奈良の風景について

明らかに三輪三山であるが、その山は巻向、三輪、畝傍のいずれか私には不明である。この土地を「故郷」として据えることは小津安二郎の「原点回帰」的なコンセプトを象徴しているように感じられる。

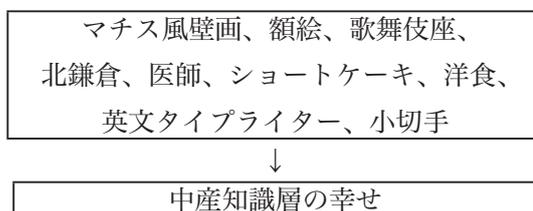
## 8. 構図、配置

この点に関しては以下の点が顕著であった。

- ・シンメトリー
- ・相似形
- ・食事場面の人物配置
- ・クレーンショット

## 9. 映画から受けるメッセージ

「私たちは良い方ですね」という台詞から「ほどほどの生き方が本当の幸せである」というメッセージが読み取れる。その幸せは中産知識層の幸せであり、以下の場面からもこのことが明白である。



## 10. 議論のポイント

この映画の鑑賞後には、以下の様なトピックスなら議論が活性化するのではないだろうか。

- 1) ほどほどの生き方と幸福感について
- 2) 子どもの状況および、子どもに対する接し方
- 3) 男性観
  - ・40第独身男
  - ・年の差
  - ・子連れ男との結婚 等々
- 4) 結婚観
- 5) 不在